

スマイルふぞく



子供たちの成長が何より嬉しい！

2学期に入り1か月が過ぎようとしています。ここまで北斗の子らが新しいことを学び、成長していく姿を数多くの場面で見ることができたことを嬉しく思います。「6年生の校内小体会」「運動会」「表現発表会」と、その代表的な行事の魅力を、裏面で紹介していますので御覧ください。その他にも校内の様々な取組を「学校ホームページ」で詳しく掲載していますので是非見ていただくと嬉しいです。



QRコードを読み取り、ホームページ
を見ることができます。スマイル附属情
報を様々な発信中です！

親の応援が北斗の子を輝かせる！

10月15日(金)～17日(日)に、川口会長をはじめとする育友会本部の皆様の呼び掛けにより始まった「北斗の丘再生」を応援する除草作業。6年生が「下級生にも自分たちと同じように思いっきり北斗の丘で遊んでほしい」と考え取り組んでいる北斗の丘再生を後押ししてくださるプロジェクトでした。1・2日目は真夏を思わせる強い日差しの中、黙々と北斗の丘の雑草を刈り取っていただきました。3日目には運動場や校舎周りにも手を広げ、見違えるほど美しい環境に生まれ変わりました。汗を流しながら颯爽と帰って行かれる保護者の皆様の後ろ姿を見送りながら、三位一体のスマイル附属を目指していこうと意を新たにす、漲る力をいただきました。

常々、「スマイル附属になるために、これからどうやったらいいだろう」と考え続けていますが、やはり頼りになるのは保護者の皆様の応援であり協力であると実感する3日間でした。

これらの詳しい様子は、ホームページでしか見られない学校だより別冊『スマイル写真館』を掲載しましたので、上のQRコードからアクセスし、学校だよりコーナーからどうぞ御覧ください！



10/14(木)は6年生の校内小体会



10/15(金)から3日間の北斗の丘清掃



10/24(日)は全校が輝く運動会



10/29(金)は2～5年生の表現発表会

なぜ運動会は盛り上がるのか

本年度の運動会は、黄組が優勝して幕を閉じました。「今を駆け巡れ 三色の流星群」という運動会のテーマのとおり、3色の選手たちが、流星群のように運動場を駆け巡りました。

さて、運動会は、いつも練習で使っている同じ運動場で行いますが、別の場所のように盛り上がります。盛り上がる理由の一つに「環境」があると考えます。本番の日は、テントを張ります。保護者やこれまで関わってくださった先生方など、いろいろな人が競技や演技をする場を取り囲みます。このようにして、「ステージ」が完成します。子どもたちは、「ステージ」に上がり、競技・演技をします。

運動会当日は、子どもたちが「ステージ」に上がる日なのです。コロナ禍の影響で、2度の変更があった運動会でしたが、例年以上に盛り上がりました。閉会式での6年A組の古賀未桜さんの言葉が印象的でした。

「たくさんの人の支えがあって『今』の私があるということに、改めて気付くことができました。」

運動会という特別な「ステージ」で競技・演技するだけではなく、「ステージ」を準備し、支えてくださった方々に感謝の言葉を述べることができる北斗の子を心から誇りに思った瞬間でした。

文責 教頭 松永

最高の機会

今年度、長崎市小学校体育大会は中止になりました。6年生が、とても楽しみにしている行事の一つであり、寂しい気持ちになったことと思います。

そんな中、6年担任団の熱い思いから、「附属小小体会」を開催することにしました。

なぜそこまでして附属小小体会を開いたのでしょうか。

それは、小体会が一人一人を強くする機会であるとともに、強いチーム(学年)になるために必要不可欠なものだからです。強くするとは、「何事にも全力で臨み、努力し続ける力が向上するということ」です。技能の向上を目指すことはもちろんですが、心を強くする絶好の機会なのです。10月14日(木)、附属小小体会での6年生の姿は、身に付けた強さが際立っていました。やはり小体会は、最高の機会です。

文責 主幹 池田

Moving Forward

56.4%の視聴率があった東京五輪の開会式。コンセプトは「Moving Forward」。今の社会環境だからこそ一歩前へ歩み出す思いが開会式の表現に込められたそうです。

私は運動会の時に本部テントから各学年の表現を観るのが楽しみでした。学年のカラーが現れ、心の底から踊ることを楽しむ姿、痛さを我慢して土にまみれる姿、多くの感動があります。また、そのような本番での子どもをじっと見つめる担当教諭の後ろ姿からも心を動かされるものがありました。表現を通して、学年、子ども、そして教師が成長する瞬間です。

先日の表現発表会も、学年全体で取り組み、子どもの輝く姿を見ていただくための機会であり、コロナ禍から一歩前へ踏み出す機会でもありました。今後も、よりよい教育活動に向けて Moving Forward し続けます。

文責 教務 橋田